

かながわの 民俗芸能

第66号



足柄ささら踊保存会

神奈川県民俗芸能保存協会

目次

巻頭言

見落としていくこと

神奈川県民俗芸能保存協会会長

後藤 淑

3

「みんぞく芸能祭inかながわ」開催される

事務局

4

「みんぞく芸能祭inかながわ」西さがみ大会について

みんぞく芸能祭inかながわ西さがみ大会事務局

5

民俗芸能散歩(5)

人形浄瑠璃芝居とひらつか

平塚市

7

寄稿

相模原郷土懇話会 平成12年度会員共同調査「相模原の盆踊り」

相模原郷土懇話会

9

会員だより

三浦半島芦名・淡島神社祭り今昔

永田泰祐

13

諏訪神社明神獅子舞の変遷

中里泰紀

14

アース・メイカー

徳山泰子

15

新団体会員紹介

牛込獅子舞保存会

会長 吉村正幸

16

ニュース・伝言板

協会事業報告

会員活動報告

お知らせ

17

18

19

巻頭言 見落としていくこと

神奈川県民俗芸能保存協会

会長

後藤

淑



最近、県下の民俗芸能の保存と指導に携わっていただいていた指導者を、次々と失った。それによって民俗芸能の保存と継承について、改めて考える必要性を実感した。

芸能の継承、発展には二つの基本があるとされている。申すまでもなく、演者と観客である。この二つのいずれかを失っても芸能は成り立たない。

だが、今日の民俗芸能はこの二つだけでは継承と発展が望めない。民俗芸能を文化財として保存する法律が定められたのは、二つの要素だけでは存続が難しいので、価値があると認められるものは、法律によって保護を加えようとしたのである。自然の流れにまかせておくと消滅すると考えたからである。

規則は絶対的なものではないから、法律に定めたからといって、その通りにはならない。演者と観客の在り方に対し、第三者の側から民俗芸能の保存、育成に関する環

境作りがなされなければならないように思う。それによって、演者と観客に夢と楽しみが生まれて来たらと思う。掛け声だけでなく、具体的な方策が必要であろう。見落とされている事ではなからうか。

民俗芸能が学校の教育の一環として、クラブ活動に組み込まれることがあってもよいと思う。その場合、民俗芸能を教えるのは教員ではなく、芸能の技を伝えて来た保存会の方々であることは申すまでもない。これは芸能であることに間違いなからう。

生徒と学校で教わることに以外に別の世界があることを見付け出すに違いない。民俗芸能を教育の中に取り入れるという試みは、すでに全国的に試みられているが、それはごく一部に限られている。神奈川には民俗芸能を伝えている市町村が多く、芸能の種類も多い。民俗芸能を教育の中に取り込むことは、今まで見落とされて来たことではなからうか。

民俗芸能の調査も緊急の時期となっていく。民俗芸能調査も緊急の時期となっていく

る。民俗芸能調査は第二次世界大戦前からすでに行われて来たのだが、現時点にたって省みると、調査に見落としがあつたのではないかと思わせることがある。たとえば、演者はどういう考えが働いて演じていたか、観客はどのようにそれを受けとめ見ていたか、演者と観客との心の授受に関する採集は十分であつたか。採集されたものを読むと、その点が見落とされていたのではないかと思わせる。

小学校の頃(昭和のはじめ)、母と旅行の芝居を村の小さな芝居小屋(昭和座とあった)でよく見た。歌舞伎がほとんどであった。その時、母が芝居は旧派がいいと言ったことが、今でも脳裡に深く残っている。旧派とは、新派に対する言葉で歌舞伎のことである。何故、旧派がいいと言ったのか聞いておきたかった。村の郷土史研究家の採集記録を見ても、その答えは見当たらない。歌舞伎と新派では脚本も違うが、演じ方も違っている。現在の私どもには、

歌舞伎の方が分りにくい。歌舞伎の方が見慣れているからであつたらうか。どうもそれだけではないように思う。地方で行われていた芝居も民俗芸能の一つである。民俗芸能の採集は演者と観客との心の結びつきを見落としていなかったであろうか。

20世紀前半までは、民俗芸能がまだまだ私たちの生活の中に生きていた。20世紀後半から21世紀にかかると、民俗は私たちの生活の中から次第に消え、または変容した。物事を合理的に考えるようになり、存在の意味を考へることが絶対であり、無駄なことは全く意味がないとした。その民俗が何故生まれ変容したか。無駄なことの背後に真実がありはせぬか。人間の心の動きに関する採集は見落とされていなかったであろうか。

「過ぎし日の扉を開きて正しき今を知り、正しき今を知って輝かしき明日の扉を開く」という言葉もある。

「みんぞく芸能祭inかながわ」開催される

事務局

二十一世紀の幕開けの年となった昨年、神奈川県では「2001年希望の年」と位置づけ、県内全域を会場として、様々な分野で記念事業が企画されました。

そのような記念事業の一環として、神奈川の歴史・風土に育まれ、地域で大切に受け継がれてきた民俗芸能を広く県民の皆さんに紹介して、芸能から地域の再発見をしてもらい、あわせて担い手の方々にも励みにさせていただこうと計画されたのが、この「みんぞく芸能祭inかながわ」でした。当協会も実行委員会の一員として参加いたしました。

今回の事業は、2本の柱で開催されました。

まず第1の柱は、各地区で行われている民俗芸能の行事に「みんぞく芸能祭」に加わっていただき、広く県民に広報し、参加してもらおうとするもの。これは、1月の「新春祭囃子たたき初め大会」に始まり、11月の「茅ヶ崎市郷土芸能発表会」に至るまで、全部で実に19の催しに参加していただき、各地で盛大に行われました。またこれにあわせて、実行委員会では県内の民俗芸能を紹介して、県民の皆さんに一層の理解の一助となるように「かながわ民俗芸能

ガイドブック Discover かながわ」を刊行しました。

そしてもう一つの柱が、複数の民俗芸能団体が一堂に会し、観る人の興味関心はもろろん、出演団体間も互いの交流を深め刺激を受け合うという相乗効果が期待される「大会」の開催でした。

メイン大会となる「みんぞく芸能祭2001」は、横浜市中区のかながわドームシアターを会場に開かれました。第1部は、「強羅子供ばやし」（箱根町）、三浦いなりっこ保存会による「いなりっこ」（三浦市）、相模の国飯山白龍太鼓保存会による「飯山白龍太鼓」（厚木市）、生麦囃子保存会による「生麦囃子」（横浜市鶴見区）、あしがらあそびの学校による「中野七頭舞」（小田原市）といった、子ども達を中心とした民俗芸能5団体が出演。神奈川ならではの多彩な民俗芸能を紹介する第2部では、平ろう太鼓「鼓舞子」（県立平塚ろう学校、大島諏訪神社獅子舞保存会による「大島の獅子舞」（相模原市）、横須賀鷹伝統文化保存会による「木遣り・梯子乗り・纏い」（横須賀市）の県内3団体の他、在日韓国民団神奈川地方本部・横浜中華学院校友会の方々による韓国・中国それぞれの獅子舞も

披露されました。

第1部の5団体はともに、地域に残る民俗芸能を伝承していこうというしつかりとした基盤の上に、力強く受け継いでいる子供たちの自信にあふれた姿にたくましさと同もしさを感じました。

第2部のうち平ろう太鼓「鼓舞子」は、平塚ろう学校の生徒達がわずかに残った聴覚と、太鼓の鼓動が生み出す空気の振動を感じる感覚、練習によって養われた仲間との呼吸をたよりに演奏するもの。アメリカ公演にも行く予定でしたが、同時多発テロ事件の影響で急遽中止となってしまい、当日はその分もと見事なばさばさを披露してくれました。また韓国・中国の獅子舞は、それぞれ我が国のものとは異なる個性的な獅子の姿と、独特の所作で会場も大いに沸き、エンディングでは大島の獅子舞を加えた3カ国の獅子舞による「夢の競演」が実現し、民族も民俗も越えた、まさに神奈川ならではの「みんぞく」の祭典となりました。

横浜でのメイン大会に対し、県西部でも「みんぞく芸能祭」の趣旨に共鳴し、小田原市と南足柄市の民俗芸能団体を中心となつて周辺の市町に呼びかけて実現したのが「みんぞく芸能祭inかながわ 西さがみ

大会」でした。出演団体の特徴や規模にあわせて、南足柄市・小田原市の両会場に分かれての上演になりました。（詳細につきましては西さがみ大会実行委員会からの報告をお読み下さい）

県内各地で育まれてきた民俗芸能は、時代の変遷にさらされながらも新世紀を迎えました。その姿は、それぞれの地域で培ってきた文化の一部（あるいは文化そのもの）であるといっても過言ではないでしょう。二十一世紀は、国の内外を問わず、今以上に互いの文化を伝え合い、理解し合い、尊重し合うことが必要となる世紀です。その意味では、今回のような記念事業をきっかけに、自分達の住む地域を知る機会を持ち、そこから他の地域・他国といったように理解の輪を同心円状に拡げていくことは非常に有意義であると考えられます。今後このような機会を有効に活用していきたいと考えています。

「みんぞく芸能祭inかながわ」西さがみ大会について

みんぞく芸能祭inかながわ 西さがみ大会事務局

二十一世紀最初の年として、神奈川県

はこの2001年という年に「希望の年」と銘打った記念事業をおこしました。その一つに県内の民俗芸能・民族芸能にスポットをあてた「みんぞく芸能祭inかながわ」がありました。事業は県民部文化課が主管し、主にメイン大会と各市町村で開催される民俗芸能行事をリンクして全県的に盛り上げていこうというものでした。

「希望の年」記念事業の多くが県東部に集中する中で、「みんぞく芸能祭inかながわ」のメイン大会も横浜のかながわドームシアターで開催される予定になっていました。メイン大会以外でも事業展開できたら、新世紀の第一年目にふさわしい記念事業になるのではということから、県西部の民俗芸能団体さんの多くが協力していこうということになりました。

特に後継者育成の取り組みがなされている小田原では毎年後継者育成を実施し、発表会を開催していましたが、これを拡大するかたちで市外の民俗芸能団体などにも交えて記念大会を開催してもいいのではないかと気運がありました。そこで、毎年民俗芸能団体が市民文化祭で一

堂に集まって公演している南足柄市の民俗芸能団体にもお声をかけて実行委員会を編成し、メイン大会とは別に「西さがみ大会」として開催することになったのです。

小田原民俗芸能保存協会に加盟する団体だけで8団体ありますし、南足柄市には4つの民俗芸能団体があります。秦野市や各町にある民俗芸能団体が仮に1団体ずつご出演頂いたとしても大変な数です。会場を南足柄市文化会館と小田原市中央公民館の2箇所に分けて、南足柄市大会と小田原市大会と銘打つことになりました。また予算も、県と小田原の民俗芸能保存協会や「みんぞく芸能祭inかながわ」実行委員会からの持ち合わせだけでは足りず、民間企業から協賛金として多額のご厚志を戴いて実施をすることができました。

さて、南足柄市大会は平成13年12月2日の日曜日に、小田原市大会は翌週の12月9日日曜日に開催されました。観客が千人も入る大きな南足柄市文化会館の大ホールには広い舞台がありますので、「小田原ちゃん踊り」、南足柄市の「内山剣舞踊り」や「足柄ささら踊

り」といった大勢の人数が集まる民俗芸能、あるいは「小田原囃子」のような大きな音の出る囃子・和太鼓などを中心

に9団体が集まりました。一方、収容人員五百人程度の小田原市中央公民館ホールの舞台は、曽我別所の「寿獅子舞」や湯河原町の「焼亡の舞い」などの少人数で構成される民俗芸能の公演に向いています。そのような民俗芸能を中心に8団体が集まりました。

その全てをご紹介することは残念ながらできませんが、両大会で特に好評だった公演についてご紹介いたします。「あしがら太鼓」は創作和太鼓です。大人も子供も障害のあるなしにも何ら関係なく編成されており、その演奏は自由闊達で奔放な雰囲気の中にも独特な調和があり、観衆から大変多くの賛辞を集めていました。

「世附の百万遍念仏」は舞台の床を傷めてしまうことから数珠をまわす部分はビデオ放映で、これに続く獅子舞などを実際にやっていただきました。滑稽なやりとりなどに場内は笑い声が絶えませんでした。実際に数珠を回して欲しかったという御意見を多くのお客様からいただき

ました。大磯六所神社に伝わる相模国府祭の「鷲の舞い」は、国府祭（こうのまち）においてのみ舞われる神事舞踊で、まず他

は公演されることのない貴重なものでした。その公演は準備段階から厳か

た。その公演は準備段階から厳か

た。その公演は準備段階から厳か

伝わる「大漁木遣唄」は、ブリ定置網の大漁場を抱えた西湘地区の海岸一帯で、網締めの際に唄われていた唄でした。それが今日では山王神社の祭礼や地域の祝いで唄われるようになり、唄い手も漁師から普通の人が変わりました。御輿を担いで登場し、祭りさながらに「突っ込み」まで披露され、同地区の習俗もよく解る演出でした。

箱根太鼓振興会は箱根を代表する和太鼓集団です。和太鼓をアートと表現するほど極めて意識の高い団体で、スクリーンに映し出された箱根の風景を背景に、曲を披露しました。

大会の最後は小田原市と南足柄市両市に存在する「相模人形芝居」でした。緞帳の前で下中座の人形解説を行いながら、その裏では足柄座と下中座で舞台設営を行うという慌ただしさです。演目は足柄座が「伽羅先代萩 政岡忠義の段」、下中座が「絵本太閤記十段目 尼ヶ崎の段(口)」で、三味線は竹本土佐子師匠、大夫はそれぞれ坪井義子さん、義太夫萩の会。いずれも好評をいただくことができました。

開催内容

民俗芸能大会名等	開催時期・開催会場	
新春たき初め大会(祭囃子保存連絡協議会)	平成13年1月21日(日) 13:00~17:00 ハーモニーホール座間	
第25回秦野市民俗芸能大会	平成13年1月28日(日) 13:00~16:00 秦野市民文化会館小ホール	
第22回新春はやし叩き初め大会	平成13年1月28日(日) 10:00~16:00 海老名市立総合福祉会館	
第28回相模原人形芝居大会	平成13年1月28日(日) 12:00~16:00 平塚市中央公民館大ホール	
郷土芸能保存横浜北3区連合会 第17回発表会	平成13年2月11日(日) 12:30~16:00 横浜市緑区公会堂	
小田原民俗芸能後継者育成発表会	平成13年2月25日(日) 13:00~16:40 小田原市中央公民館ホール	
第23回川崎市民俗芸能発表会	平成13年3月4日(日) 10:00~16:00 川崎市宮前市民館	
舞台セット完成記念公演(相模人形芝居足柄座)	平成13年5月26日(日) 13:30~15:30 南足柄市文化会館小ホール	
第25回ささら踊り大会	平成13年7月24日(火) 13:30~16:00 藤沢市秋葉台文化体育館	
第32回郷土芸能大会(祭ばやし大会)	平成13年9月15日(土) 10:00~15:00 鶴岡八幡宮境内	
平成13年度相模人形芝居特別公演	平成13年9月30日(日) 13:00~15:00 厚木市文化会館小ホール	
海老名市民文化祭 大谷歌舞伎特別公演	平成13年10月21日(日) 14:00~16:10 海老名市立文化会館	
第26回芸能発表会	平成13年10月28日(日) 13:00~16:00 仙石原文化センター	
第27回二宮町民俗芸能のつどい	平成13年10月28日(日) 12:00~15:30 生涯学習センターホール	
第39回厚木市民文化祭 郷土芸能発表会	平成13年11月3日(日) 12:30~16:00 厚木市文化会館	
第32回郷土芸能大会(芸能大会)	平成13年11月11日(日) 12:00~16:30 レ・ウェル鎌倉	
第25回ひらつか民俗芸能まつり	平成13年11月18日(日) 13:00~15:30 平塚市中央公民館	
第22回横須賀民俗芸能大会	平成13年11月18日(日) 13:00~15:30 横須賀市文化会館	
第29回茅ヶ崎市郷土芸能大会	平成13年11月25日(日) 13:00~16:00 茅ヶ崎市民文化会館小ホール	
みんぞく芸能祭2001	平成13年11月25日(日) 13:00~17:00 かながわドームシアター	
みんぞく芸能祭 in かながわ 西さがみ大会	南足柄市大会	平成13年12月2日(日) 12:00~17:00 南足柄市文化会館大ホール
	小田原市大会	平成13年12月9日(日) 12:00~17:00 小田原市中央公民館ホール

民俗芸能散歩(5) 平塚市

人形浄瑠璃芝居とひらつか

平塚市には三人で一体の人形を操る「相模人形芝居」と、一人で一体の人形を操る「乙女文楽」の二種類の人形浄瑠璃芝居があります。このように複数の形態の人形浄瑠璃芝居が伝承されている地域は全国的にも稀で、当市では貴重な財産としてその保存と伝承に取り組んでおります。

まず、「相模人形芝居」とは江戸時代に相模の地に伝えられた人形浄瑠璃芝居で、三人で一体の人形を操り、「鉄砲差し(てっぽうさし)」という独特の形状の首(かしら)を遣う特徴があります。祭典の奉納余興、或いは農民達の楽しみとしてこの人形芝居は取り上げられ、かつては相模の国に十五ヶ所ほどあったと言われています。しかし、理由ははっきりしないものの明治末から大正期にかけて伝承が途絶えていきました。そんな中、小田原市の「下中座」、厚木市の「長谷座」「林座」は絶えることなく、また、南足柄市の「足柄座」と当市の「前鳥座」は一度は途絶えたものの復興し、現在ではこれらの五

座はそれぞれ国及び県の無形民俗文化財に指定され、「相模人形芝居連合会」を結成し稽古に励んでおります。

当市の「前鳥座」は、相模の古道や中原街道の沿線で、相模国第四の宮にあたる前鳥神社の鎮座する古い土地柄の「四之宮」という地区に伝承された人形浄瑠璃芝居で、当初は「四之宮の人形」と言われて先述の「鉄砲差し」の首を所有していました。ところが、明治四十二年に四之宮地区のほとんどの家屋を焼失する大火があり、この際に江戸時代から継承してきた首や衣装の大部分を失ってしまった人形連中は、この人形浄瑠璃芝居の継承のため何よりも先に大阪へ出向き、人形を買い求めたという事です。

現在、二十四名の座員は幾多の災難を乗り越え、今日まで力強く伝承されてきたこの人形芝居を絶やさぬよう、後継者の養成に努め、また年に一度の「相模人形芝居大会」をはじめ、市内外での公演に向けて日々精進しております。

次に「乙女文楽」とは一人で一体の人形を操る特殊な人形浄瑠璃芝居で、大正末期から昭和初期にかけて始まりました(本来、遣い手は素顔の少女に限られました)。これに福岡県出身の宗政太郎氏が参加して一座を継承、昭和二十七年に神奈川県茅ヶ崎市に転入し、これ以降、「乙女文楽」は神奈川に根付きました。唯一の伝承者として活躍中の桐竹智恵子師匠はこの宗政太郎氏の三女に当たります。

昭和三十八年に宗政太郎氏が他界し、時代の流れの影響も加わり「乙女文楽」は衰滅寸前となりました。そこで当市は、昭和四十四年に散逸しかけていた人形の手首五十六点と衣装三十組を買い取り、保存活用を検討した結果、昭和四十七年、当時は女子校だった県立高浜高等学校でクラブ活動として取り上げられ、桐竹智恵子師匠の指導が始まることとなりました。大阪で始まり、一時は衰滅寸前になった「乙女文楽」が平塚という地で高校生により力強く成長を遂げていったのであります(同様に県立茅ヶ崎高等学

校でも桐竹師匠の指導で活躍するクラブ活動があります)。そして平成二年にはこれらの卒業生が中心になり、「湘南座」が結成されました。

現在も桐竹師匠は、熱くそして鋭い眼差しで座員や部員の練習を見つめ、そして温かく見守り、また座員や部員もそんな師匠に応えようと新しい演目に積極的に挑戦しております。

時は流れ、生活は多様化し、人それぞれの価値観も変わってきました。しかし、どんなに時代が変わろうとしても変えることのできない不変の部分があるのも紛れもない事実です。我々はこの平塚の地で伝承されてきたこれらの人形浄瑠璃芝居こそ貴重な財産と認識し、いつまでも絶やすことのないよう、毎年十一月には「ひらつか民俗芸能まつり」を実施し、多くの方々に御覧いただいております。また、全国的にも知られる湘南ひらつか七夕まつりの際には「郷土芸能大会」を共催事業として開催し、市内外の皆さまにアピールして参りました。今後も機会ある毎に保存と伝承に向け各団

相模原郷土懇話会 平成12年度会員共同調査 “相模原の盆踊り”

時宗宗祖・当麻山無量光寺開山の一遍上人、一遍は念仏踊りを信州小田切の里にて初めて踊り、その踊りはまたたく間に全国に広まっていった。盆踊りのルーツは、そんなところにあるようだ。

それらのルーツを持っている盆踊り、相模原では各地で盆踊りが行われている。

平成12年度に行われた市内各地の盆踊りの実態を郷土懇話会共同調査項目として選び、調査をした結果をここに報告いたします。

1) 本調査に御協力いただいた実施団体 合計29団体

実施自治体

自治会自体の実行委	22	経済（農協）	3	経済（商店会）	2	ふるさと祭	2
-----------	----	--------	---	---------	---	-------	---

地区別

相原	8	大沢	1	田名	5	橋本	1	大野北	7	大野南	3	上溝	1
麻溝	1	相武台	2										

2) 開催日

7月（計18団体）

14日	16日	18日	20日	21日	22日	23日	28日	29日	30日
金	日	火	木	金	土	日	金	土	日
1団体	1	2	1	1	2	1	1	6	2

8月（計16団体）

4日	5日	6日	19日	24日	26日	27日
金	土	日	土	木	土	日
2団体	7	1	2	1	2	1

1団体2日開催は延べ団体数とした。上位日8月5日：7団体 7月29日：6団体

8月7日～18日は開催団体がなかった。 2日開催：5団体 1日開催：24団体

体とともに一歩ずつ歩んで参りたいと思
いますので御協力をお願いします。
なお、この記事を観覧になり、それぞ
れの人形浄瑠璃芝居に興味をお持ちで
られましたら市教委発行の『平塚市文化
財調査報告書』の第二十九集に「前鳥座」
が、第三十一集に「乙女文楽」がまとめ
られておりますので社会教育課にてお求
めください。



前鳥座



湘南座

5) 盆踊りは、いつからどこで・・・など

☆上 矢 部 S26年青年団が始めたが、その後青年団がなくなって自治会の主催となった。やぐらははじめは丸太、今は鉄骨に変わっている。

☆上溝四ッ谷 4～5年前より踊り手が少なく、自治会の頭の痛いところ。

☆相原当麻田 S26年相原八幡宮の祭礼のときに開催されていた。S62年から開催日は祭礼とは別になり、会場も当麻田小と一年交替になり、H6年納涼まつりとして盛大になっていった。会場は当麻田小のみとなった。

☆相武台前 S27年頃までは電電公社社宅の空地などで行われ、それから地域内のあちこちと場所を変えた。S37年には、駅からキャンプ(東山)へ行く道路で、S45年は稲垣ビル裏の空地で、S46年頃は相模原信用組合前(現駐輪場)、H4年頃より相武台1丁目公園にて毎年開催している。

☆田名ふるさとまつり S56年第1回ふるさとまつりから田名自治連婦人会が主になり毎年盆おどり大会が開催されている。それ以前も田名地域盆おどり大会が田名小、田名中校庭で行われていた。S56年から会場は公民館前道路を(歩行者天国)使用。

☆中 淵 S22～23年頃龍像寺境内で、地域婦人による盆おどりが行われた。踊る曲名は炭坑節ではなく、ご詠歌風の曲だったとのこと。その後、皇武神社境内で青年団が主催し、子どもやお年寄りを招待して非常に喜ばれたとのこと。現在は中淵ふれあい広場で賑やかな夏祭りとして自治会事業として定着している。

☆上 大 島(長徳寺) 相模原で開催されている盆おどりの中で最も盆おどりと思われるおどり。今でも長徳寺大滝住職の読経がある。唄も地域の平和を祈り農民の幸福を念じた“長徳寺盆踊り”(昭和8年か9年頃の作・昔ながらの素朴な旋律と踊りを保っている)が踊られている。

3) 参加人数と踊った人の比率 (踊った人÷参加人数×100=%)

10%以下	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	100%
2団体	9	4	3	1	3	3	3	1

ひとりに比べると盆踊りは衰退しているようである。実際開催していても実態は地域の夏祭の機能が強く、子供たちを寄せる夜店など開くところも多く、踊る人が少ない実態がよく調査に表れている。

4) 踊りの曲名

相模原音頭	29 ^{団体}	河内音頭	火の國太鼓
炭坑節	28	みよちゃん	おむすび音頭
神奈川おどり	12	盆おどり	四ッ谷音頭
大東京音頭	9	山王音頭	ガンバレ音頭
ドラえもん音頭	8	津軽の花	おめでた音頭
花笠踊り	7	八木節	ダンゴ三兄弟
東京音頭	7	勘三郎音頭	浴衣音頭
白浜音頭	6	家族っていいな	アラレちゃん音頭
みんな集まれ音頭	6	長徳寺盆おどり	市子連音頭
相馬盆唄	6	音頭で盆おどり	幸せ音頭
21世紀音頭	5	好きになった人	ポケモン音頭
唄ばやし音頭	5	天ぶら音頭	空港ラブソディ
新田名音頭	5	北国の春	アンパンマン
(以下団体数略)		日本晴れだよ	クルクル音頭でリサイクル
ビューティフルサンデー		沖縄音頭	ふれあい音頭
血液ガタガタ音頭		平和音頭	平成ふれあい音頭
めんそーれ沖縄		中淵音頭	お祭り音頭
相原音頭		チャンチキおけさ	(計52曲)

踊りの曲名は52曲に及んでいた。S33年度に誕生した相模原音頭は市民によく親しまれており、全団体が踊っていた。

以下、炭坑節・神奈川おどり・大東京音頭と続いて市民の根強い支持を得ている。この中で、一つの地域、一つの自治会単位で音頭をつくっているところ…新田名音頭・相原音頭・山王音頭・中淵音頭・四ッ谷音頭・長徳寺盆おどりがあった。



底抜け柄杓が沢山奉納され針供養が行われる

和歌山市加太という所に淡島神社があつて、全国の淡島信仰の中心となっている。子授け、女性特有の病氣平癒、安産、女性の厄除け、縁結び、針仕事の上達など、女

性の平和祈願に寄せられる信仰である。芦名では、「淡島さん」と親しみのある呼び方をしているが、全国的にもこの名が通称であるという。

会員だより

三浦半島芦名・淡島神社祭り今昔

永田泰祐

「紀伊名所図会」には、祭祀由来として神功皇后の三韓出兵伝承が記載されている。淡島神は住吉神の妃神であったが、帯下の病にかかったため海に流され、三月三日に紀州の淡島に標着して祭祀されるに至ったとも伝えられ、淡島信仰は海から寄り来る神、常世神（とこよがみ）に対する信仰に源を発していると考えられる。」と、吉川弘文館・日本民俗大辞典に記されている。二〇〇一年三月三日（土）、芦名の淡島さんのお祭り

の翌日が娘の誕生日ということもあり、二月十四日生まれの紫花（すみれ）という孫の健康と女性の安全を願い、淡島神社に一人で参詣する事となる。パレンタインデーに大きなチョコレートならぬ大きな女の子を贈ってくれた娘に感謝しながら・・・。

この神社は少名毘古那神（すくなびこなのかみ）―古事記で祭神と言われ住吉明神の妃になったが、腰に女性であるがための病があったために離縁となって、前述の紀州加太の淡島（粟島）に流されてしまう。少名毘古那神は苦しんだ挙句、自分の苦痛を別人にばさせてくれないという思いから、大勢の女性を救って行こうと誓い女神となったと伝えられている。芦名海岸から山側に登って行く途中に、底が抜けた柄杓を叔父さんに奉納する様に声を掛けられた。柄の付いた「ひしゃく」（湯・水などを汲みとる道具）を受け取った。底がな



小舟に乗せられた人形たち

いので水などはもちろん汲むことはできない。「底抜け柄杓のいわれ」の記された説明文を頂いた。それによると、

〔省略〕和歌山市の淡島（粟島）に流されました（省略）人々を救うことを誓って神になりました祭神が淡島に流された時に、船が浸水したため柄杓で水をかい出したが、途中で底が抜けてしまい、それでも水を汲み出す事ができたという故事にちな

6) 相模原音頭

昭和30年頃、相模原市内各地で盛んに盆踊りが踊られた。

市内のレクリエーションとして公民館主催でも行われたが、その歌は炭坑節や東京音頭その他で本来、歌われるべき地域の歌がなかった。

そこで昭和32年相模原市民の歌が制定されてのに続き、昭和33年相模原音頭の作詞が全国的に募集され119点の応募があった。

この中から藤沢市の山西多朗の作詞が選ばれ、平井康三郎により作曲、振付け中山義雄により昭和33年8月に新装となった市立体育館で発表会が行われた。

相模原音頭は、市民の歌と共にレコード化もされ、市レクリエーション協会などの積極的な普及活動でもあって市内各地で開催される盆おどりに、なくてはならない盆おどり曲の一つとなった。

参考文献 『相模原市史』・『相模原教育史』

問い合わせ先：相模原市郷土懇話会 石井 篁

(042-753-2769)

本寄稿文（相模原郷土懇話会平成12年度共同調査『相模の盆踊り』）は事務局にいただいた冊子から転載させていただきました。



むのです。また社伝によれば、淡島の神が、この芦名の地に流れついた時にすくい上げた柄杓とも言われています。(以下省略)

とある。節供にあわせて、流しびなの催しも、太陽が西空に傾く頃行われた。人間の身体について不浄や災いをひな人形に託して、小さな和船に乗せて海に流す習わしを見ることもできた。この時間(四時過ぎ)になると、海辺の寒さが身にしみだが、娘や孫が幸福になる感じがした。

(五十年前の淡島さん)
小学校低学年頃の三月三日、桃の節供は、淡島神社祭りの日であった。在学は、神社から程近い横須賀市立大楠小学校、六年間の間には渡り蟹や蛸(これは小使さん)、

会員だより

諏訪神社明神獅子舞の変遷

中里 泰 祐(大島の獅子舞)

相当古くからあったものと思われるが、起源の年代は明らかでない。獅子頭の裏に「文政十二年・円明院に世桃源法師修理」とあるのでそれ以前からあったということ、獅子頭のようなものは、少なくとも200年位は持つと思われるので、400年位は経っているものと思われる。両部神道修験道の祝芸の一つで神物加護を願い、国土・家内の安全を求めて、障礎の悪魔を追い払うという為に行われたものであつ

貝殻等を捕った思い出の地でもある。「淡島さん」の日は、小学校は休みになった。善男善女が遠方(県下)からも大勢参詣に

来られていたし、小さい子供達が危険だからという、校長さんの計らいがあったのでしよう。また、国鉄(丁)R)逗子駅から林ロータリー(今、交差点)方面からは、芦名バス停までKHK(京浜急行)と記された緑色の臨時のバスが運行された。来るバスそれぞれが満員のため乗車できない事や、友達と「淡島さま」に行く楽しさ一杯で、苦ではなく馬骨坂という急な坂道をかか

た。もともとは、神仏両道に立つ修験道だったものが、明治5年の神仏分離令により神社の獅子になった。そもそも獅子はどこから伝えられたのだろうかについては明らかになっていないが、関東では御深草天皇の宝治元年、天皇の前で舞ったという下総の国の角兵衛、角内、角助という三人兄弟の子孫でなければ舞を伝授してはならない掟だったので、そのゆかりの人々が師匠になって伝わったものと思われる。三頭舞

む。最後に組み立て、慎重に専門家の手を借り、平成9年5月完成した。バスガイドさんにヒントを得てから一年半の長い道のりだった。後で分かったことだが、面は平成天皇にしゃくを献上している人で、漆職人は金閣寺等、国宝級の建造物を手がけられた人だったと聞かされ、何と幸運なことだったかと驚いた。



の獅子は武相周辺では、山崎角大夫が始まるといふものが多いがその中でも角兵衛流

ではないかと言われている。ゆつたりとした中にも美しさのある舞として伝えられている。

【獅子舞新調】

獅子頭面が大分痛んできたので新調しようとの話が出てから3、4年経った、平成7年10月に、大島獅子舞の責任者になっている中里正楽さんが、高山方面へ旅行に行かれた際の事。バスガイドさんが胸に吊した福笹の彫り物を見せ、「これを持っていてと幸福になりますよ、これは一位の木で作ったもので、高山でお求めになりますよ。」との説明を受けた。その日は高山泊まりだったので、日ごろから気になっていた獅子頭面を作っている店を探し、師匠格の面作り師がいるというお店でその話をしたのが始まりだった。高価なものなので、氏子の皆さんの賛同を得ないと出来ないことであ

るし、また一位の木では漆塗りができないので、カツラの木で作りましたよ、との事。ようやく氏子の了解も得られ、獅子頭の面も出来上がった。しかし、出来た面に色々なものを付けなければ獅子頭にはならず、まず漆塗の本場木曾の名工に依頼をした。次に、籠作り。三頭三様手のかかる作業だったが、当地区内で出来る人がいたので依頼。次は髪の毛で、麻を編んで色付けをする。麻は浅草まで本物の注文に行く。色付けは、染め方の指導をいただき自分達で、そして正楽さんが研究しながら毛を編

む。最後に組み立て、慎重に専門家の手を借り、平成9年5月完成した。バスガイドさんにヒントを得てから一年半の長い道のりだった。後で分かったことだが、面は平成天皇にしゃくを献上している人で、漆職人は金閣寺等、国宝級の建造物を手がけられた人だったと聞かされ、何と幸運なことだったかと驚いた。

合っているのです。この風景こそ、この国が世界に対して、世界のために誇り守るべき文化なのです。地球環境から見た日本の伝統的農業の素晴らしさと先進性に早くから着目され、地球の未来のために日本の農業の復権と復興に尽力されている評論家の富山和子先生はこう嘆いておられます。

「もう少し日本の歴史教育というものが、自分の国の建国において農業が果たしてきた役割の大きさ重さについてきちんと教えていたならば、日本の農業はここまで衰退しなかったはずなのに。」と。それは同時に、日本の歴史教育というものが、自らの国土を自らの手で耕し培うことを守り支えてきた人々の視点をもち得ていたならば、日本の歴史教育というものが、もつと自主性と自負心を持った、健全なものになっ

会員だより

アース・メイカー

徳山 泰子

神奈川の民俗芸能は、実にバラエティに富んでいます。あらゆる信仰、そしてあらゆる生業と結びついています。そもそも労働の現場から生まれてきた民俗芸能は、その土地の産物の数だけその土地に存在するのでしよう。

神奈川の芸能と産物の豊かさは、即ち、神奈川の自然の豊かさに他なりません。杣人や木地師、鋳物師といった人々が暮らすの糧を得、生活の拠点とした山。貴重な資源となるだけでなく、時には敵の侵入を防いでくれる天然の要素として、代々の戦国武将達により手厚く保護管理されてきた豊富な森林。また、それらと相呼応して多

彩な恵みをもたらし、その幸と富を運ぶための交通・交易路ともなった海。さらには、その山と海の間にあつて、自然の神秘と、人の力の偉大さの結晶・象徴たる神聖なる実りを年毎に顕し続けてきた稲田。そして、これら山野河海の循環に加え、近年はダムや人造湖といった、人工の力の賜物として、渇水時には隣接する首都東京におすそ分け出来るほど豊かに供給され続けている水。

そこでは、宗教と科学の間にすら、はしたなくも区別をつけたがる近代というのが、破綻分装させ対立させてしまった人と自然、生産と人間がまだ美しく依存し



平成12年7月7日に第24回相模ささら踊り大会が開催された厚木市愛甲の水田風景

くれる事を、とりわけ戦後の教育における歴史的・道徳的欠落を埋めてくれる事を、そうしてこれからも積み重ねられて行く、これからの日本の歴史を建設的なものにして

いつてくれる事を信じ、また願ってやみません。
(由来)

新団体会員紹介

牛込獅子舞保存会

会長 吉村 正幸

牛込獅子舞(県指定無形民俗文化財)は、

五十三名

江戸時代元禄年間、朝鮮(現在の韓国)より海を渡り、新潟より八王子を経て、悪疫流行のおり当地へ伝えられたと云われています。

(問合わせ)

〒225-0011

横浜市青葉区あざみ野1-21-4

吉村 正幸

電話 045-901-3348

平成十三年十一月 あざみ野中学校創立二十周年で獅子舞を披露しました。

一人立ち三頭獅子で、向かって右側に剣角獅子、中心に雌獅子、左側に巻角獅子と前面に赤毛に軍配を持った幣負い、この他に大万灯一人、小万灯二人、花笠に女装のササラ子が二人つきます。この役は全て子供たちで、裏方として大人が笛吹き、唄い手、ホラ貝吹きとほほ三十人位で成り立ちます。

この獅子舞は、牛込獅子保存会の会員の手により、三百年以上続いています。

(催行日)

十月の第一土曜日宵宮牛込神明社にて十四時頃奉納。十月の第一日曜日日本祭り驚神社にて十三時頃奉納。

(会員数)

ニュース・伝言板

協会事業報告

○平成十三年度理事会及び総会の開催

平成十三年六月二十四日(日) 県立歴史博物館において、本年度理事会及び総会が開催され、十二年度事業報告・決算報告が承認されました。併せて十三年度事業計画案、予算案が可決されました。総会終了後、民俗芸能記録ビデオ鑑賞会が行われました。今回は、当協会常任理事、城所恵子氏の解説のもと、「世附の百万遍念仏」(県指定無形民俗文化財)を鑑賞しました。

○平成十三年度民俗芸能見学会概要報告

平成十三年度の見学会は3回でした。

第1回見学会

《第3回かながわ民俗芸能のつどい「館屋踊り特集」》
日時 平成十三年十一月三日(土・祝)
場所 川崎市立日本民家園「船越の舞台」
民家園まつり民俗芸能舞台公演として、「長井町の館屋踊り」(横須賀市指定無形民俗文化財)、「菊名の館屋踊り」(神奈川県指定無形民俗文化財)、「土橋の万作踊り」

が披露されました。

第2回見学会

《民俗芸能北から南から 第五十一回全国民俗芸能大会》
日時 平成十三年十一月二十四日(土)
場所 日本青年館大ホール
恒例の全国民俗芸能大会を見学。出演芸能は、「寺崎の法印神楽」、「福知山の紫宸殿田楽」、「伊江島の村踊り」、「組踊り「忠臣蔵」」。

第3回見学会

《相模人形芝居大会・相模人形芝居教室》
日時 平成十四年二月十七日
場所 平塚市中央公民館
神奈川県内の相模人形芝居5座が一堂に会して公演する相模人形芝居教室と、下中座による人形芝居教室(ワークショップ)。「人形と楽しむ」。演目は、長谷座「傾城阿波の鳴門」、下中座「絵本太政記」尼ヶ崎の段「上」、林座「絵本太政記」下、足柄座「伽羅先代萩」政岡忠義の段、前鳥座「御所桜堀川夜討」弁慶上使の段でした。
○民俗芸能教室
《相模人形芝居教室》
相模人形芝居大会の公演に先立って午前中

に会員以外の一般の方にも開放した、相模人形芝居教室を神奈川県民俗芸能保存協会の主催で開催しました。また、相模人形芝居の解説、人形の操作体験などを下中座の協力で実施しました。

○民俗芸能関係情報の提供

団体会員及び市町村から提供された民俗芸能関係の情報を取りまとめ、3ヶ月ごとに会員の方々に提供しました。
第1回 平成13年7月暫定号(6月発行)
平成13年8月〜9月(7月発行)
第2回 平成13年10月〜12月(9月発行)
第3回 平成14年1月〜3月(12月発行)
第4回 平成14年4月〜6月(3月発行)

○共催・後援事業

あつぎひがし座・第二十七回人形浄瑠璃公演(後援)
期日 平成十三年六月十七日(日)
場所 厚木市文化会館小ホール
県立厚木東高校人形浄瑠璃部の卒業生で組織する人形浄瑠璃の団体、あつぎひがし座が、年1回行っている自主公演です。演目は、「傾城恋飛脚」新口村の段、景事「団子売」でした。
第二十五回相模ささら踊り大会(共催)
期日 平成十三年七月二十四日(火)
場所 藤沢市立秋葉台文化体育館
民家園まつり(民俗芸能公演)「館屋踊り特集」(共催・かながわ民俗芸能のつどい)



期日 平成十三年十一月三日(土・祝)
場所 川崎市立日本民家園 船越の舞台
文化の日恒例の民俗芸能公演で、土橋万作踊り(川崎市宮前区土橋)、長井町の館屋踊り(横須賀市長井)、菊名の館屋踊り(三浦市南下浦町菊名)が民家園まつりの民俗芸能舞台公演で勢揃いしました。
2001年「希望の年」記念事業「みんなで芸能祭inかながわ」西さがみ大会(共催)
期日 平成十三年十二月二日(日)
場所 南足柄市文化会館大ホール
期日 平成十三年十二月九日(日)
場所 小田原市中央公民館ホール
2001年「希望の年」記念事業は、神奈川県歴史と風土に育まれ、地域で大切に受け継がれている「民俗芸能」等を広く紹介し、親しみを持っていたくと共に、担い手の方々の継承活動の励みにしていただくというものです。西さがみ大会は、足柄上下両郡2市8町の西さがみ地域の様々な民俗芸能団体が出演しました。

第二十九回相模人形芝居大会(共催)

期日 平成十四年二月十七日(日)
場所 平塚市中央公民館大ホール
相模粋鼓會とお囃子の集い(後援)
期日 平成十四年三月十七日
場所 相模原市あじさい会館ホール

○芸術文化・伝統文化による地域活性化のための事業

記録映像作品制作 (9作品)

- 『相模人形芝居 (林座、長谷座、下中座、前鳥座、足柄座)』
- 『大山阿夫利神社の倭舞・巫女舞及び引目神事ほか儀礼習俗』
- 『チャッキラコ』
- 『三増の獅子舞』
- 『神奈川の民謡 (川崎稲毛地区の座敷唄、鎌倉木遣り、鎌倉大船の焼米搗き唄、小田原栢山の田植え唄及び箱根馬子唄・長持唄)』
- 『神奈川の鹿島踊り (寺山神社の鹿島踊り、吉浜の鹿島踊り、貴船神社の船祭りの中の鹿島踊り)』
- 『箱根の湯立獅子舞 (仙石原、宮城野)』
- 『神奈川の神楽』
- ①湯花神楽 (鶴岡八幡宮、瀬戸神社、白旗神社)
- ②鶴岡八幡宮の人長の舞、八乙女の舞
- ③棚宜舞 (白幡八幡大神)
- ④相模里神楽 (垣澤社中)

『菊名の鉦屋踊り』

神奈川県民謡緊急テープの補修及びデジタル保存

神奈川県指定及び選択無形民俗文化財16mmフィルム記録映像作品23巻のデジタル化

○祭囃子保存会若音会

この祭囃子は、明治の中期に綾瀬市早川という地域の人達から伝承された新囃子といひます。曲目は、「屋台ばやし」「鎌倉ばやし」「四丁目」「岡崎ばやし」「神田ばやし」等に主に出演しています。私達保存会は、伝統芸能を保存するために後継者育成・芸技術の高揚を計り保存に励みたいと思ひます。



【活動報告】平成十三年一月新春祭囃子叩初大会、五月座間市大風まつり、七月龍蔵神社祭、八月地域盆踊り大会、八月日米合

会員活動紹介

○足柄さらら踊保存会



足柄さらら踊保存会は、昭和二十九年婦人会の人達によって構成され、現在会員三十八名毎日平均一回練習を行っています。夕日の滝開き、相模さらら踊大会、足柄峠の笛まつり、自治会の夏祭り、市民文化祭に出演、会員一同継承と保存に努めています。なお、踊りには七通りあり、日の丸の

扇二本持つて踊る広町の扇おどり、扇を手紙に替えて踊る関本の手拭おどり、雨坪の扇おどり、関本の甚句、太鼓を打ちながら踊る中沼の太鼓おどり、飯沢の扇おどり、輪になって太鼓やササラを持つて踊る福泉の丸々おどりがあります。

【出演予定】

- 夕日の滝開き 平成十四年七月七日 (第一日曜日) 大雄山駅から地藏堂行バス
- 相模さらら踊大会 平成十四年七月二十六日
- 足柄峠笛まつり 平成十四年九月八日 (第二日曜日) 大雄山駅から万葉公園行
- 市民文化祭 平成十四年十一月二・三日
- 南足柄文化会館

○お峯入り保存会

【予告】

日時・場所：平成十四年十月十三日 (日) 九時～山北駅近隣広場、十三時半～山北町神明社境内 (雨天の際は、町の中央公民館で九時、十一時、十三時半と3回の公演を予定しています。)

国指定重要無形民俗文化財である「山北のお峯入り」を、6年振りに公演します。

お峯入りは、八十人の男子が役柄に応じて扮装し、用具を持って8演目、十一種類の歌舞をそれぞれ披露していきます。所要時間は約1時間となっています。

古代歌垣の遺風を今に伝えるもの、又、原始宗教や山岳宗教の呪法が芸能化する課

たします。

原稿を募集しています

事務局では会員の方々からの投稿をお待ちしています。日頃の活動状況、写真等、お気軽にお寄せください。

ご意見・ご感想をお寄せください

事務局では、読者の方からのご意見ご感想をお待ちしています。機関誌に限らず、協会や事業のことについてもお気軽にお寄せいただければ幸いです。

編集後記

平成十三年年度の機関誌をお届けします。昨年度は例年の諸事業に加え、記録作成事業や「みんぞく芸能祭inかながわ」関連事業等で会員の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

日頃皆様からいただく活動報告や情報提供の原稿等からは、新世紀を迎え今なお力強く発展を続けんとする団体の方々のエネルギーと、それを真摯に受け止めようとす

る会員の方々の熱い思いを感じます。団体の中には比較的順調な活動を続けているところばかりではなく、むしろ決して恵まれていないと言ひ難い環境の中にも先人の残した魂を受け継がんとしている方々も多いときいております。

次代へ「芸能によって伝えるメッセージ」が生きている。今日の伝承者の方々もそれぞれが単に技術を護るだけでない、いわば「時代を創る」存在なのだということであらためて気づき、また民俗芸能に携わる方々がそのことに対し実に前向きに取り組まれていることに感動しきりの昨今です。これからもそんなメッセージを少しずつでも感じ取ることができたら...と考えております。

今後ともよろしく願ひします。

お知らせ

新規会員募集

民俗芸能を実際に行っている方、また民俗芸能に興味をお持ちの方等、協会では多くの方々の入会をお待ちしています。協会では事業として、各種芸能見学会、会報の発行等を予定しております。入会ご希望の方は、事務局にご連絡ください。ご案内の書類等を送付します。なお、会費は個人会員は年額一口千五百円、団体会員は一口三千円となっております。

会費の納入について

当協会事業の円滑な運営のためには、会員の皆様の会費納入のご協力がぜひとも必要です。現在平成十四年度分の受付をしておりますが、平成十三年度以前の分が未納の方は至急納入くださいますようお願いい

「かながわの民俗芸能」第66号

平成14年3月31日発行

編集 神奈川県民俗芸能保存協会

事務局 横浜市中区日本大通33 神奈川県

教育庁教育部生涯学習文化財課内

電話〇四五(二〇)一一一一

内線八三五三

発行 神奈川県民俗芸能保存協会

印刷 中川印刷株式会社

神奈川県立

04.7.14

図書館